

2020年度 政策提言ツアー 実施報告書

実施日：2021年2月16日(火)

意見交換：財務省(主計局)、国土交通省、特許庁、文部科学省

参加者：赤井ゼミ¹学生13名、引率教員1名(赤井)

目次

1. 政策提言ツアー企画の経緯.....	1
2. スケジュール.....	2
3. 写真.....	3
3. 学生コメント.....	5
3.1 財務省.....	5
3.2 特許庁総務課、企画調査課(知財活用・大学担当).....	7
3.4 文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課.....	9
3.5 国土交通省 総合政策局・物流政策課物流効率化推進室.....	11
5. 政策提言ツアー実施の効果：企画者のコメント.....	13

1. 政策提言ツアー企画の経緯

大阪大学法学部国際公共政策学科赤井ゼミ所属の学生が2020年度に執筆した論文が、ISFJ(日本政策学生会議)において、優秀賞を受賞した。論文において提言した政策に関して、実際に、その政策を所管する省庁に訪問し、提言を行うこととした。受賞した論文およびその他の班の論文は、国土交通省、特許庁、文部科学省の政策にかかわるものであり、その政策担当者と議論する機会を持つことにした。本ツアーに御協力いただいた多くの皆様には、学生に貴重な体験の機会を与えていただいたことに、深く感謝したい。

¹ 連絡先：赤井伸郎(大阪大学国際公共政策研究科教授) akai@osipp.osaka-u.ac.jp

2. スケジュール

1. 日程・開催場所

- 日時：2021年2月16日（火） 10：00～17：00
- 開催場所：OSIPP6階会議室（9：15に集合すること）

2. 訪問先

- 午前の部：財務省
- 午後の部：①文部科学省、②特許庁、③国土交通省

3. タイムスケジュール

時間	内容
9：15～	OSIPP6階会議室に集合
9：30～	財務省の Teams に入室開始
10：00～10：45	プレゼンテーマ①（国交係） 櫻井班発表
10：50～11：35	プレゼンテーマ②（特許庁・文科省） 首藤班発表
11：40～12：00	調査課長との意見交換
12：00～13：30	昼休憩
13：30～14：30	省庁訪問①特許庁 総務課、企画調査課（知財活用・大学担当） 首藤班発表
14：45～15：45	省庁訪問②文部科学省 科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課首藤班発表
16：00～17：00	省庁訪問③国土交通省 総合政策局・物流政策課物流効率化推進室 櫻井班発表
17：00～	解散

総務課、企画調査課（知財活用・大学担 特許庁 当）

3. 写真

財務省訪問〔午前〕と意見交換

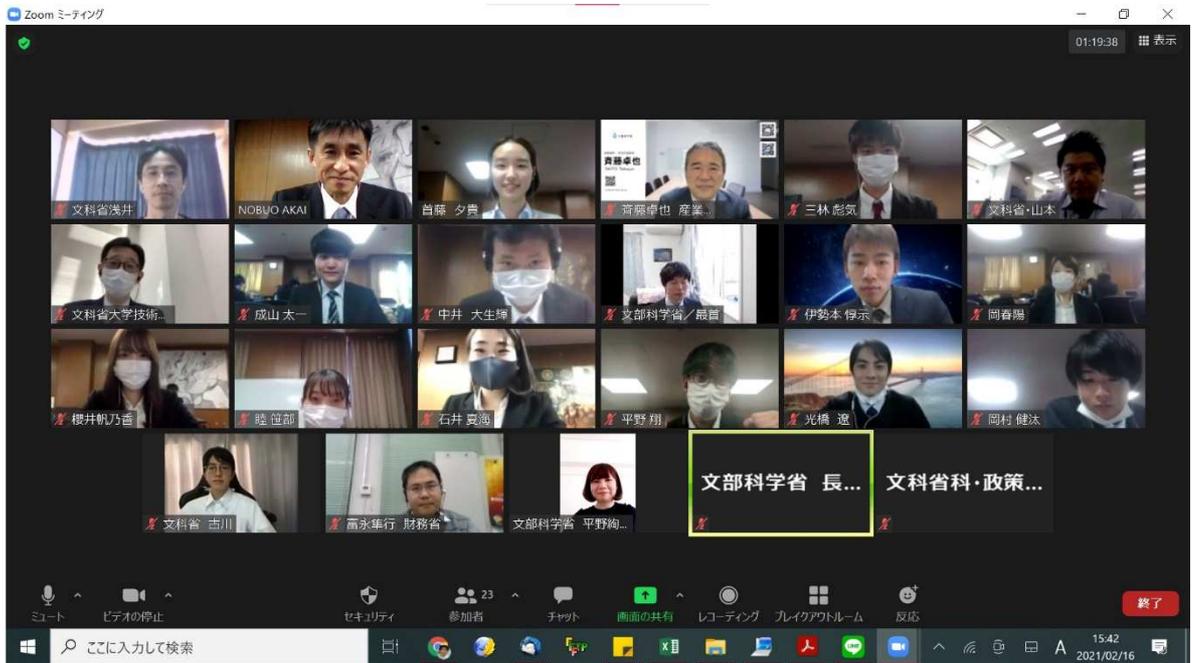


各省庁との意見交換会(午後)

特許庁様



文部科学省様



国交省様



4. 学生コメント

4.1 財務省

財務省への政策提言での発表・議論（自分の班および、他の班）から感じたこと、学んだこと：発表・議論で得られたもの

"

1. 1年かけて書いた論文の集大成としての霞ヶ関提言ツアーを、開催形式こそ通年と異なるものの2、3年生が経験できたことは、本人達の実りとなったと思います。私(4年)としても、実務では官庁において学生論文とは比べ物にならないほど丁寧に情報が精査され、綿密に政策が作り上げられている姿を垣間見ることができました。(渡辺)
2. 経済産業省、文部科学省にまたがる分野での論文だったため、普段は別の係で仕事をしている方々から、多様な視点でフィードバックを頂きました。執筆中苦労した部分も多々あったのですが、そこに対するヒントであったり、提言をより改善していくための新たな示唆であったりを提示して頂き、大変刺激的な一日となりました。実際に訪問することは叶いませんでしたが、実りの多い機会となりました。(首藤)
3. 先日は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。政策の効果とその財源についてシビアに考える姿勢がとても印象に残っています。実務的なお話を聞けて大変勉強になりました。(岡村)
4. 財務省の皆様ありがとうございました！日本の行政機関の「生の声」を聞くことができ、とてもためになりました。政策提言を考えるにあたり、本当にその政策が必要か考えることの重要性を再認識することができました。改めて、ありがとうございました。(平野)
5. 最終的には補助金を使わずに市場だけでモーダルシフトがなされなければならないと思います。今後いつそう国の財政状況は厳しくなると予測できるので、様々な政策が行政の補助金頼りでは立ち行かなくなることかと思います。ご指摘された通り、フォワーダーや輸送業者の好みを分析に含めることができませんでした。「港までの短距離なほど船が選択される」という分析結果でしたが、そのロジックをコスト面からしか考えておりませんで、新たな視座をいただきありがとうございました。(笹部)

6. 自分たちの執筆した論文が評価して頂けてとても嬉しかったです。質問にも丁寧に答えて下さり、専門的な視点からの指摘はとても参考になりました。また予算を出す側として物流と特許にどのようなスタンスをとっているのか知れてよかったです。コロナ関連予算のプレゼンをお聞きし、現在の国債発行高にはかなり不安を感じました。またアフターコロナの経済活動のビジョンもシビアで経済回復と救済措置の両立は非常に難しいと感じました。(成山)
7. コロナ対策、経済回復、財政健全化の三兎を追わなければならない厳しい状況にあることが理解できました。あまりにも立ち足はかかる壁が大きすぎるため、細かな数字や短期的な策だけでは解決が難しく、文化や価値観などの根底からの転換点を迎えていると思います。どうしたら社会を包んでいる神話のようなものを疑い、新しいことに挑戦していけるのかを考えていきたいです。(石井)
8. 財務省というとコストベネフィットに最も重きを置くというイメージが強かったが、実際にはどのようなビジョンを描いている予算なのかを最も重視されていることが伝わり、政策とはビジョンとの差を正しく認識し、ビジョン実現のためにあるものだということが再確認することができました。またコロナとはいえ財政収支があまりにも悪くなっていることから、この国の将来に大きな不安が募りました。財政健全化・コロナ感染対策・経済再生の三兎を追うのは本当に大変で、出口が見えない中で戦っていらっしゃる職員の皆様に尊敬の念を抱いております。(岡)
9. 富永様が仰っていた内容、すなわち、①とりあえず「やってみる」ということが重要であること、②そのぶん「やめる」ことも重要であること、そして、③ビジョンを考えることが大切であること、の3点がとても印象に残っています。既存の枠組みの中で継ぎ接ぎした政策だけではなく、描きたい世界へ向かって、スモールスタートで施策を打っていく必要性を感じました。(光橋)
10. 政策の実現可能性や、市場原理についてなど実務に携わる方の貴重な意見を頂き、大変参考になりました。必ずや来年の論文執筆に活かしたいと思います。この度は貴重なご機会ありがとうございました。(三林)
11. 大変お忙しい中、貴重な機会を提供いただき誠にありがとうございました。各提言に関して、主に費用面からご意見をいただくことができ、大変勉強になりました。いただいたご意見から、予算面にも考慮しているつもりであっても実情を理解しきれていないところ、できるだけマーケットメカニズムに任せていくという視点が欠けているところが多々あり、実現可能性の高い提言を行うことはやはり難しいのだなと実感しまし

た。ただ、その中でもどんな目的で行うのかをはっきりさせること、どこまで補助金を出していくのかを含めて検討する等実現可能性を高めるための視点をいただくことができ、今後も引き続き提言の立案に取り組んでいきたいと思いました。(櫻井)

12. フィードバックでは自分達が検討し執筆した観点以外からのアプローチを提案され、多面的な見方の重要性を感じた。そして私たちの現状分析や政策提言は執行官庁の視点にとどまり、一つの側面にのみ基づいていることにも改めて気づかされた。また、よく提言で扱ってきた補助事業についても、最終的に補助なしに自立して事業執行できることを目的としていることを知り、4月から行政で働くにあたって非常に言い知見を得ることができた。(中井)
13. 今回はお時間いただきありがとうございました。官庁を志望している身として改めて、コメントいただいた内容などは学びが深かったです。また、最後時間がなくてお聞きできませんでしたが、来期の予算審議についても経済の構造を一気に変えうる方向性の転換(休業補償から雇用のセーフティネットへ)がある点も興味深く聞いていました。(伊勢本)

4.2 特許庁総務課、企画調査課(知財活用・大学担当)

特許庁総務課、企画調査課(知財活用・大学担当)への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと、学んだこと：発表・議論で得られたもの(データで見る政策と、現場で見る政策など)

"

1. 提言を詰める際の具体的な視点を多く頂けて、非常に参考になりました。班で政策提言を検討する際、どうしても費用や目的・効果に重点を置いて議論していましたが、どの主体が取り組むのか、どのくらいの期間をもって政策を講じるのか、内容をブラッシュアップしていくためのヒントをたくさん得ることが出来ました。これらを、今後の研究に活かしていきたいです。(首藤)
2. 先日は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。論文執筆にあたり特許について理解を深めたつもりではいたものの、やはり勉強不足だと感じさせられました。大変勉強になりました。(岡村)

3. 特許庁の皆様ありがとうございました！政策提言に関する貴重なご意見、とても参考になりました。特に、政策提言の「期限」と「利益」に関する意見がとても参考になりました。改めて、ありがとうございました。（平野）
4. 政策を実施するにあたって重視されるのが期間と効果であることを財務省からの予算獲得の具体例と共に知ることができました。また誰がどのお金で何をするのか、財源をどこから持ってくるのかといった観点も重要であると学びました。上記の内容は来年度の政策提言でも実現可能性を担保するにあたって重視していく必要があると感じました。（成山）
5. 実際に URA などの専門職に就きたいか、という質問で、恥ずかしながら URA は具体的にどんなことしており、どういう経験や資格があればなれるのか、全く分かっていなかったことに気が付きました。（笹部）
6. そもそも URA の魅力化が必要であることが理解できました。政策提言を行ったもののうち、いくつかは実行されているものだったと思うのですが、それらの認知度を高めることで他の地域に適用可能なのではないかと感じました。官民連携の必要性の文脈で、我々ゼミ生にもできることをより行動にしていきたいと思います。（石井）
7. 特許庁の会計が一般会計とは別で行われていることを知らなかったが、それが理由でコストや予算に対する考え方も他の省庁とは違って来る点について非常に興味深いと感じました。特許という、民間と同じ速度での変化を求められる分野について、職員の皆様方が多くの事例にアンテナを貼りながら対応を日々考えられていることが感じられ、産学連携を通した先進事例が活かされていくことに希望を感じた。（岡）
8. 財源や人材の確保など様々なアドバイスを頂きありがとうございました。より良い政策提言のため今後は是非ともこうした点に目を向けたいと思います。この度は貴重なご機会ありがとうございました。（三林）
9. 今回はお時間いただきありがとうございました。担当班ではないので、意見交換ができたわけではありませんが、特許を予算の観点から見るなど、自分では持てなかった視点がありました。また別途特許庁の政策等についても直接お伺いしたいなど率直に思いました。（伊勢本）
10. 幅広い様々な視点からコメントをいただけて、政策立案には多角的な視野が必要であることを改めて感じたことが印象的でした。特に、市場の失敗に対して、必要なお金を

全て補助するだけではなく、市場の競争原理を促進してマーケットメカニズムが働くように、そこへ対してお金を使っていく視点が重要だと感じました。(光橋)

11. 大変お忙しい中、貴重な機会を提供いただき誠にありがとうございました。特許庁で行われているメインの業務は出願審査であること、産官学連携分野になかなか予算が割けないといった実務面の実情を知ることができ、非常に勉強になりました。今後日本の産業発展のために知財分野はさらに重要な役割を果たしていくものであると思うので、引き続き関心を持って学んでいきたいと思いました。(櫻井)
12. 執筆に当たって深く調べたつもりではいましたが、まだまだであると感じました。例えば、政策を執行するための財源については一般財源が適用されるものだと思っていたが、実際は特許特別会計であったなど政策を担う主体や財源の裏付けが足りなかったと感じました。しかし、今後政策立案をするときに注目すべき場所として良い経験となりました。ありがとうございました。(中井)

4.3 文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課

文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと、学んだこと：発表・議論で得られたもの(データで見る政策と、現場で見る政策など)

1. 執筆を通して非常に苦勞した点に対する共感を頂けたことは素直に嬉しく、また、詰めるべき点に関する意見を多々頂けたことは大変刺激的でした。教育政策(特に科学技術政策)は短期間で結果に繋げることが難しく、本当に効果がでるのか不透明な状況下でも政策を講じていく必要がある分野であると、一年を通して感じました。自身が抱いた興味関心の幅を広げ、来年も一学生として自身の論文分野に関する視野を広げていきたいと感じました。(首藤)
2. 先日は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。私たちの未熟な見解に対しても真摯に受け止めてくださったことが非常に印象深いです。また教育政策について議論し、勉強させていただきたいです。(岡村)
3. 文部科学省の皆様ありがとうございました！政策提言に関する貴重なご意見ありがとうございました。現場の声の入ったご意見とても参考になりました。改めて、貴重なお時間をとって頂きましてありがとうございました。(平野)

4. URA の仕事が研究成果の活用のみならず広報や基礎研究支援など多岐に及び、幅広い学問分野から就職できることが意外でした。政策作成にあたりビジョンを持ち、エビデンスを持った分析を行うことが重要だと実務者の方から教えて頂きとても参考になりました。来年の論文執筆に活かしたいと思います。(成山)
5. やはり行政側からも、特許に関する人材育成は重要視されていることがわかりました。特許人材も重要ではありますが、そもそもの特許数も重要で、最近中国が日本を含め世界各国の研究者を集めて論文を多く出しているのを見ると、日本もなんとか研究を進めていけないものかと思ってしまう。(笹部)
6. 特許庁の方の意見同様、URA の魅力化の必要性があると感じました。質もちろん、絶対数が足りないとそもそも質をあげることが困難であることは納得できました。URA を無期で雇用することが難しいため、その不安定要素を解消することが重要であることなど、現状とのすり合わせが大切だと感じました。(石井)
7. 特許庁から出向された方が、文科省と特許庁で特許に対する捉え方が違うことに触れられていて、別々の立場から一つの政策に取り組む省庁の仕組みの面白さと奥深さを感じることができました。リサーチアドミニストレーターという仕事が有用だということを知ったうえで、その仕事に就く人材がなぜ増えないのかについて実際に職を選ぶ人の立場に立って考えようとしている様子が印象的でした。(岡)
8. URA について議論をしていた際に、文部科学省の方が学生に対して、「実際にこの業界へ就職してみたい？」と投げかけた場面がとても印象的でした。学生が論文執筆をしているときは、どうしてもマクロな観点で物事を考えがちですが、いざ「あなた自身や周りの学生はどうか」とミクロな観点で尋ねられると困惑してしまったことに、はっとさせられました。(光橋)
9. 従来の政策との兼ね合いや、実際 URA になりたい人がどれくらいいるのか、周知の必要性など今後の政策提言ではこうした観点も踏まえて、より良いものを考えていきたいと思います。この度は貴重なご機会ありがとうございました。(三林)
10. 今回はお時間いただきありがとうございました。また、多くの方のお時間をいただきありがとうございました。特に印象的だった点は、途中で「URA に実際学生としてなりたいか？」といった点で現場の学生との意見交換をされ、それらを政策に反映させてい

くといった、実際の政策立案過程を体感できたことが非常に興味深かったです。(伊勢本)

11. 大変お忙しい中、貴重な機会を提供いただき誠にありがとうございました。お話を伺って URA 人材の確保が困難な状況を実感することができたと同時に、今後の日本社会においてさらに必要であり、かつより重要な役割を果たしていくであろう URA の魅力を普及させていくためには何が必要なのかということ进行深入に考えさせられました。(櫻井)
12. フィードバックでは、URA 制度を改善する提言について褒めていただき、非常にうれしかった。また、URA という職に魅力がなければ人材不足問題は解決しないのではというお話もあったが、人のやる気を掻き立てるような政策立案は正解がなく非常に難解であると感じた。だが、そこをクリアすれば課題解決に大きく近づくので工夫していきたいと思っています。(中井)

4.4 国土交通省 総合政策局・物流政策課物流効率化推進室

国土交通省総合政策局・物流政策課物流効率化推進室への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと、学んだこと：発表・議論で得られたもの(データで見る政策と、現場で見る政策など)

"

1. 国・地方・民間と異なるバックグラウンドを持つ方々からそれぞれの視点でお話を頂き、大変興味深かったです。自身の研究テーマではありませんでしたが、今日一日の経験が自身の新たな興味に繋がりました。物流効率化というテーマに、今後も注目していきたいです。(首藤)
2. 先日は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。その中で私たち学生の視点とは全く異なる実務の視点を教えていただき、大変勉強になりました。本当にありがとうございました。(岡村)
3. 国土交通省の皆様ありがとうございました！日本が直面する「トラックドライバー不足」問題を考える上でのポイントなどを知れて、とても参考になりました。改めて、貴重なお時間をとっていただきましてありがとうございました。(平野)
4. 国が問題にどこまで介入し、どこまで市場原理に任せるかの判断が難しいとお聞きし、政策提言においてもその線引きが重要な観点になると学びました。アフターコロナで

物流業界の社会的役割は益々重要になると思います。モーダルシフトの重要性を社会に広め、国が業界の特性を踏まえた上で有効な政策を作っていくことが問題の解決に繋がるのではないかと感じました。(成山)

5. 現場の地方公共団体や民間から出向されている方もおり、生の意見が聞けてとてもありがたかったです。国がマッチングシステムを構築する場合、共助にするか公助にするかを注意する必要があるということ、考えたことがこれまであまりなかったので新鮮でした。(笹部)
6. 自助、共助、公助のうち、丸抱えで公助になるのかについては説明する必要があり、財政面、マンパワー、民業圧迫などを考慮し、介入度合いを考えていくことの大切さが理解できました。また、自助、共助、公助については、対象とする領域（例えば、災害に対してなのか、インフラに対してなのか）によって物差しが異なるのではないかと感じました。(石井)
7. 物流施策においてモーダルシフトが重要な位置にあること、来年度は予算の拡充を考えられている一方で、同時にその推進の難しさも感じましたが、モーダルシフトという手段でもっと新しい手段でも「物流における過重労働と環境負荷」という問題を解決しようとしていることが伝わり、頼もしく感じました。また民間にあるものは民間をうまく活用しようというスタンスや、整備している以上港湾を十分に活用したいという気持ちを知り、「行政として」の一貫性を感じました。(岡)
8. 実際に携わってる方々の意見はかけがえなく、今回教えて頂いたポイントを踏まえてよりよいモーダルシフト推進政策を考慮したいと思います。この度は貴重なご機会ありがとうございました。(三林)
9. 今回はお時間いただきありがとうございました。今回は発表のない4年生として参加してみて、質疑に集中することができたと思っています。特に政策立案過程において重要なのは、問題意識の深さであり、表面的な問題をいかに多角的に（予算や政策を使う人）分析でき、それらを反映した政策が打てるかということが大事だと思った。(伊勢本)
10. 官僚の方々の視点だけではなく、都道府県サイドの声や、民間からの出向者の方のご意見を聞けて、幅広い視点からコメントをいただくことが出来ました。それと同時に、霞が関では、偏った意見だけではなく、人事交流を通した多種多様な考えが実務で活かされていることを知り、とても興味深かったです。(光橋)

11. 大変お忙しい中、貴重な機会を提供いただき誠にありがとうございました。論文を書き始めた時から実際に物流政策を立案されている国土交通省様宛に提言することを最終目標にしていたので、このような機会をいただけたことを非常に嬉しく思いました。お話の中にもあった「総論賛成、各論反対」という言葉が表しているように、物流には様々なセクターが関わっている反面、どこが主体となって統制していくのかという問題を抱えているとは思いますが、社会インフラという性質上行政の介入は必要であり、民間とのバランスを保っていくことも重要であることがわかりました。物流分野に限らないことではありますが、提言を考えるにあたって今後はさらに、本当にこれは行政がやるべきことなのか、民間の力を活用することはできないのかという視点を持って立案していきたいと思えます。(櫻井)

12. モーダルシフトについては、昨年度自分が途中まで調べたテーマで、官庁訪問の際に議論させていただいたテーマであるので関心があり、詳しいお話を聞くことができるいい機会だった。また、フィードバックでは民間の取り組みを邪魔しないように政策を実行していくお話が出たが、政策立案をする際には民間部門と公的部門の線引きというのが非常に難しいと感じた。最近世の中が複雑になり、公的部門の役割をどのような観点から定義しているのかが気になった。(中井)

5. 政策提言ツアー実施の効果：企画者のコメント

2013年度に政策提言論文の全国大会にゼミ論文をエントリーし、その成果を実際に霞ヶ関での政策担当者に見てもらいコメントをもらうという「政策提言ツアー」を開始して、今年2020年度で8年目となる。毎年、財務省をはじめ、政策に関わる担当の省庁のみならずには、大変お忙しいところ、若い学生のチャレンジの応援という形で、お時間を作っていただいている。感謝したい。実際に政策を設計している担当者と意見交換が出来る機会があることは、論文執筆の大きなモチベーションにも、また、今後、社会・政策のあり方を考える上で、貴重な体験となる。本年度は、新型コロナウイルスの感染により、東京に非常事態宣言が発せられ、訪問を自粛せざるを得なくなった。しかしながら、この体験は学生にとって貴重であるため、ONLINEでの実施を行うことにした。省庁の皆様、新たな試みへの対応をいただいたことに感謝したい。実際に省庁を訪問し雰囲気を楽しむことはできなかったが、貴重な意見交換を行うことはできた。やはり、まずは実行することの重要性を感じた。

この体験をした学生が、社会に出て、社会問題に直面したときに、民間部門であれ公的部門であれ、この経験が役に立つことがあると確信している。それだからこそ、企画者および対応していただいた皆様への恩返しとなるのである。この企画の継続には、時間も苦勞も多いが、学生の成長があつてこそ、やりがいがある。継続は力なり。